

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史) (主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第173回哲学カフェ例会(2022.11.10)

《戦争危機と気候危機、どうつなげて打開するのか》

「やはり戦争の危機は身近に誰もが感じていた。だが、日本でも異常気象を受けながらも、気候危機とソノ根本原因の温暖化については、さほど危機感が発せられないのはなぜか。ちょっと考えてみなければ..」

<話題提供> 主宰者:吉田千秋

・ロシア軍の侵攻によるウクライナ戦争が勃発し、地球温暖化の問題は最早、喫緊の課題でないかのように、私たちの関心の中心でなくなっています。だが、温暖化、気候変動の問題が解決に程遠い状態にあることに何の変化もありません。ウクライナ戦争は長期化し、停戦の見通しすら立っていません。この戦争は当事国や隣国の人々の生活を脅かしているだけではありません。影響は様々な領域に及んでいます。

・地球温暖化による世界的な気候変動は、人類が生存するための条件を危うくしています。ウクライナ戦争のために、地球規模の課題に取り組みするために必要な資源や人の英知が全く別の方に向けられてしまっています。戦争やコロナのためにこの課題が無くなった訳ではありません。世界の政治家たちはその意味を本当に理解しているのでしょうか。スウェーデンの女子高校生グレッタ・トゥーンベリさんが、世界の政治家たちを批判している様に、これまでの政治の取り組みは口先だけの中途半端なものに過ぎません。

・これまで戦争が環境問題としっかり結びつけて考えられることはありませんでした。しかし戦争はまず、誰もが目の当たりにすることが出来る様に、都市や社会インフラの破壊によって生活環境に著しく有害な影響をもたらします。その再建、復興には、膨大な資源やエネルギーが必要となるでしょう。またそれに加え、私たちは戦争遂行が平時の数倍、場合によって数十倍の資源やエネルギーの消費を伴うものであるという事実にも注目しなければなりません。戦場では化石燃料を大量に用いる砲弾や戦闘機が飛び



交っています。汚染物質が撒き散らされることによる被害も深刻です。

・また今回のウクライナ戦争ではウクライナの原子力発電所がロシアによる砲撃を受け放射能汚染の不安が高まる事態が生じ、発電施設がロシア軍兵士に占拠され現場のウクライナ人職員が身柄を拘束するなど、原発の安全管理が脅かされる事態が問題となっています。況してプーチン大統領による核兵器の使用の脅かしは言語道断というしかありません。こうして見ると戦争の実態は紛れもなく環境破壊であるということが出来ます。

・近年、異常気象が増加、その規模もまた拡大しています。想定を越えた大きな自然災害が世界各地で起きるようになってきました。チグリス、ユーフラテスが干上がるとか、水資源大国でミネラルウォーターの生産国であるフランスでは水を取り過ぎて、水不足が起きたりしています。反対にパキスタンでは国土の3分の1が水に浸かる大洪水が起きたりしています。現

在エジプトでCOP27が開催されています。気温の上昇を産業革命以前から1.5度に抑えることが締約国会議の定める公式の目標です。今回の会議の焦点は、CO2排出削減の具体的な取り組みに加え、地球温暖化に対する先進国の責任を明確化し、温暖化、気候変動によって発展途上国が蒙った被害と損失を補償(賠償)する責務を具体的に明文化することで合意が成立するかというものです。

・地球温暖化を抑えるために直ちに積極的な取り組みを始める必要があります。残念ながら、温暖化抑制のために欠かせない脱炭素、脱化石燃料の取り組みにおいて、日本は後ろ向きな環境対策のため世界の環境NGOから、再び“化石賞”を受賞する不名誉な評価に甘んじる羽目に陥っています。脱炭素化が急がれる状況で、途上国の石炭火力発電を財政支援する計画や、石炭にアンモニアを混ぜて発電の効率化を進めることで、火力発電の延命を図ろうとする日本政府の計画が誤魔化し対策と評価された結果です。

・日本の岸田首相はそれに対して口先では良い事を

言っていますが、現地入りもせず、何も具体的に評価できる取り組みをしていません。他国は2030年までに石炭火力を全面廃止することを前提に脱炭素化を進める計画を立てています。世界の流れに反し日本は自然エネルギーへの転換を明言することを曖昧にしています。日本政府の消極的な姿勢に対しては、日本の産業界からも懸念の声が聞かれます。

・気候リスクのランクで日本は気候変動の結果、モザンビークやバングラディシュと同様に、災害に脅かされる危険度4番目の国になっています。台風や洪水の被害が今後もっと大きなものになると予想されます。災害慣れしているためなのでしょうか。日本人に危機感が欠けている様にも見えます。

・政府の取り組みの甘さも無関係ではありません。私たち一人ひとりがもっと危機感を持って、二酸化炭素排出を削減するために何が出来るのかももっと真剣に考える必要があると思われます。皆さんの率直な意見をお願いします。

<意見交流>



* 異常気象は気になる。台風の発生頻度が高くなったり、その規模が大きくなることが想定される。怖い。政府はともかく日本の企業は本気で脱化石燃料の取り組みに努めている様に見える。加えてトヨタは雇用確保を念頭に水素エンジンの開発に努めてきた。トヨタは培ったエンジン技術を生かした自動車を存続させるために、水素ガスを使ったエンジンの開発を進めている。評価できる試みである。

* 日本はエネルギー効率がよく、一人あたりで計算するとCO2排出量は多くない。政府の取り組みは中

途半端かもしれないが、民間はそれなりに行っていると言える。

* ウクライナ戦争の当事者たちに今環境問題を考える余裕はない様に思われる。戦争が大きな環境破壊であるとしても、国民の大多数は領土奪還のために戦争を継続することを望んでいる。ウクライナの人々の思いは理解できる。だからこそ、地球温暖化を抑制するために平和が不可欠の条件であると言える。

* すぐにも温室効果ガスの排出を大幅に削減する必

要がある。しかし太陽光や風力発電の様な再生可能エネルギーが今直ぐに火力発電に取って代わることができる訳でないことも明らかである。問題は原子力発電をどうするのかということである。原発は温室効果ガスを排出しない。再生可能エネルギーへの転換には時間が掛かる。多くの学者が原発を活用して、早急に火力発電を止める様にしなければならないと言っている。

* 日本政府はこっそり火力発電も原発の維持しようと考えている。政府や利益優先の電力会社のことはに惑わされずに、再生可能エネルギーへの転換を進めるべきである。

* 柔軟に対応する必要があるのではないか。福島原発事故以来、日本の原発の多くは稼働停止の状態にある。そのため不足する電力の供給を補うために、停止されていた火力発電所が発電を再開した。結果として日本は脱化石燃料の動きに反して温室効果ガスの排出を大幅に増加させてしまっている。仮に将来的に原発を廃止するにせよ、出来るだけ早く脱CO2を実現するために原発の再稼働を認めるかどうかしっかり考える必要があるのではないか。

* ウクライナ戦争をきっかけに、東アジアにおける中国や北朝鮮の軍事的脅威がまことしやかに叫ばれるようになって、軍事力強化を前提とした防衛論争が盛んになっている。世界各地で軍拡競争が起きる恐れがある。

* 温室効果ガス削減を目指して、さつまいもを発酵させてメタンガスを作り出したり、ヘドロからメタンガスを取り出して発電に利用する新しい試みが始まっているらしい。地域の電力を地域で賄うことができれば、環境に優しい自給自足の循環型社会を実現できる。

* 太陽光発電はパネルの下の土地をどのように使うかという課題がある。これまではパネルの下の土地は利用されずに、雑草の生える荒地となっていた。もっと有効活用することを考えるべきである。日本の太陽光発電はそれなりに普及した。しかし廃棄物となった大量のパネルをどうするのか。ガラス部分を再利用することが考えられている。

* 太陽光発電を全ての家庭に普及させれば、原発依存を脱却することができるのではないか。

* 地域循環型社会を実現する必要がある。日本は中央集権的で、政治は常に政府の統制に地方が従属する形で行われてきた。地方が独自の道を進むことはほとんど困難だった。電力は国家の統制下、独占事業となった。この枠組みを打破して、発電を小型の地産型事業にするようにする。

* 石炭の効率的利用は明らかに問題の抜本的解決でなく、批判は当然である。もっと別の可能性に目を向けるべきである。日本はよく見れば自然エネルギーの宝庫である。火山が至る所にあり、地下には膨大な地熱が眠っている。

* 再生可能エネルギーの普及は民間に任せても中々実現しない。企業は金儲けの論理で考える。事業として成功する見通しが立たないことに手を出さない。小型の地域型再生可能エネルギーは儲からない。地域型の発電を進めるには政治が変わる必要がある。

* ブラジルで先日大統領選挙があった。再選を目指した現職のボルソナロ氏は元大統領のルラ氏に敗北した。ボルソナロ大統領は温室効果ガスによる地球温暖化の事実を認めず、アマゾンの熱帯雨林の保護に無関心で、住民の反対を無視してアマゾンの開発を進めようとした。

* ウクライナ側はロシア軍をウクライナ領内から押し出すまで戦いを止めることはない。国民の85%が戦争を継続することを強く支持している。この戦争はプーチン氏の戦争で、軍事侵攻を決めたのも彼で、彼が決断すれば終結させることができる。しかし軍を撤退させれば、敗北を認めることになって、彼の権力の座を危うくしかねないので、目的を達成しないまま、戦争を止めることができない。

* 戦争の問題に関しても、環境問題に関しても、知らない事が一杯ある。視野を広げる必要がある。サツマイモを使ってバイオマスとしてメタンガスを作る試みや、地産地消を目指す郡上の石徹白での水力発電の試み、いい話であるが、現実には中々広がらない。具体的に話を進めようとする利権がらみの障害にぶつかる。

* 何を計画するにせよ、儲け話でないと話は進まない。善意や理想だけでは現実の問題は解決できない。

* 地産地消は国防である。資源の供給で外国に依存

し過ぎることの問題がウクライナの戦争で明らかになった。戦争当事国でなくても、多くの国が大きな影響を受ける。依存度が高ければ、資源供給国の横暴を黙って受け入れることを余儀なくされる。

*ドンバス出身の女性から聞いたことだが、ドネツクなどウクライナ東部地域はロシアからの移住者が沢山いる。彼女の母親もロシア人で、ロシアによる2014年のクリミア併合まで、ウクライナ人とロシア系住民との間に何のトラブルもなく、戦争は全く考えられなかったと言う。

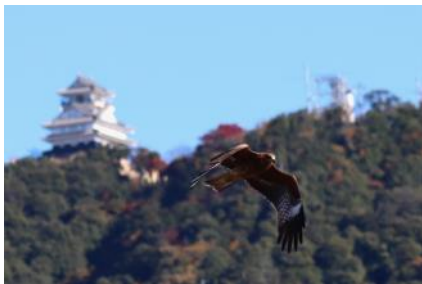
*政治は再生可能エネルギーへの転換を進める一方で、CO2を回収する産業を育てる必要がある。森林を活かす方法も考えるべきである。太陽光で水を電気分解させ、グリーンな方法で水素を取り出す試みは期

待大である。牛のゲップや糞には大量のメタンガスが含まれる。大きな問題はメタンガスがCO2の27倍の温室効果を持つことである。現在、牛が排出するメタンガスを燃料として利用する試みが行われている。これも注目に値する。

*一部で“気候民主主義”という言葉が使われる様になっている。気候の危機に既存の政治システムが有効な対策を打ち出すことが出来ずにいるのに対して、ヨーロッパなどで政治家の無作為に抗議する若者たちの気候ストライキの様な抗議活動が広がりを見せている。こうした一般市民の直参加による話し合いや意思表示を指して“気候民主主義”と呼ぶ。その展開に期待したい。

<意見交流の最後に>

吉田千秋



・今日は戦争と環境問題をつなげて考えようという試みでした。切り口が多样で、絞るのが難しかったようです。戦争は最大の環境破壊だから、いますぐ

にでも戦争を停止することが第一の課題です。だが、現実には難しい局面になっています。どうすればいいのでしょうか。戦争は国と国の間の武力衝突です。今回のウクライナ戦争は、疑問の余地なくロシアのプーチン大統領がウクライナを自分の思惑に従わせようとして起こしたものです。

・ロシアの軍事進攻の直後は、フランス、ドイツも入ったミンスク合意(東部地域の自治権を認める)に立ち戻ることで停戦の可能性に思われました。だが現在、ロシアはもちろん、ウクライナ政府も徹底抗戦の構えで、行く所まで行かないと終わらない様に思われます。これに対して、憲法9条を持つ日本の私たちは、何としても国際的な外交折衝の枠組み設定にこぎつけ、一刻も早く停戦・休戦に至るように願わずにはおれません。

・しかしいま、ウクライナ戦争を機に、日本の政府は東アジアにおける軍事的緊張を口実に軍拡を進めようとしています。沖縄は米軍が駐留しており基地問題を抱えています。台湾海峡の有事の際に、米軍の前線基地となつて、直接戦争に巻き込まれる恐れがあります。戦争に反

対する立場から、日本政府は米国に対してもっとはっきりものを言うべきです。

・何より戦争をしないことが大切です。軍事的対立を前提に軍拡を進めるよりも、戦争そのものを回避するための努力が求められています。戦争ができる国作りを考えるのではなく、戦争を起こさせない様に力を合わせるのが何よりも優先されなければならないと思われます。

・戦争危機の問題も、気候危機の問題も、国家や企業・富者の論理でなく、国民の生活視点から出発して考える必要があります。政治家に任せないで、民の運動を作つて声を上げることが重要です。いまマスコミやSNSを通じて真偽の不確かな情報が飛び交って、正しい判断が難しい状況に置かれています。この「哲学カフェ」が時流に流されないで、人間生存の根本前提としての平和や環境の問題をしっかりと考える場となるように力を合わせたものです。



<11月例会感想、意見、便りなど>



○<いつも「哲学カフェ通信」有難うございます>

統一教会の件ですが、私も知らないことばかりで、法律についての資料を添付していただき、法律の知識の大切さをとても感じました。

寄付という課題は宗教のみならず広く関係することとしますので正しく理解が大切かと思えます。

また、組織力は国家権力までも操作できる可能性があることに改めて驚いています。そして、政治が国民目線ではないことに怒っています。(rantyu)

○<サツマイモから電気！>

サツマイモから電気を起こす。鹿児島島のいも焼酎メーカーが、製造過程から出る多量の「芋くず」「焼酎かす」をエネルギー化することにたどりついたようだ。

今では、年間約850万wh、2400世帯の年間消費電力を生み出している。

待ったなしの気候危機が叫ばれるなか、このニュースがひとすじの光が差し込んだようでうれしい気分になった。たしかにこれだけでは世界は救えない。だが、ソーラーシェアリングなど、各地でいろんな取り組みが行われていることは心強い。私たちは常に世界をながめながら身近なところで何ができるかを考えていく必要があると思った。(katachikeikoku)

○<トヨタに二つの疑問>

気候温暖化対策にからんで、世界の流れであるEV(電気自動車)化に対して、トヨタが当面は「ハイブリッド(HB)を守る」とする戦略について、国内では賛同が多い。その理由として、HBなどのエンジン車の製造には膨大な雇用が関わっている。EVは選択肢の一つで、21世紀の車の出力方式は多様であることが期待されている、などが挙げられている。

然り。だが、待てよ。トヨタをはじめ日本の自動車業界は、永年年中行事のように仕入部品の単価切り下げを要求し、結果として下請中小の賃金レベルを低く押さえ

続け、企業体質を脆弱にしてきた。また、日本の経済格差や二重構造などの問題を深刻にしてきたのではなかったのか？

温暖化ガスの削減はいわば人類への絶対命令だ。HB車は従来のガソリン車よりは排出量が抑えられるとの理由だけで、目標年を先延ばしできる余裕はあるのだろうか？多くの国民は、その先の、排出ゼロへの展望も聞きたいと思っている。

トヨタは昨年末「2030年に向けEVを30車種用意」とブチ上げた。ところが、今年発売を開始したEV2車種が原因不明の不具合で、早々にリコールとなり一時製造中止に至った(現在は再開)。自己保身だけでは、NO！の声が殺到する時代だ。人間と環境に寄り添う自動車産業への転換が期待されている。

(フィリピン・ウオッチャー)

○<戦争危機も、気候危機もしっかり考えよう>

戦争と気候問題が今回のテーマであるが、戦争を避けるには、権力者の暴走を如何にして留まらせるしかないのであれば、我々は政治への理解を深め、政治家をよくチェックすることが極めて大切である。

一方で、気候変動問題すなわち地球温暖化問題も、その根本的な原因は何かをよく理解することが大事である。突き詰めれば、プラスチックゴミも含めて生態系が維持されていないことが問題であり、我々がなすべきことは、出来る限り循環型社会を取り戻すことに尽きるのではないかと思う。

世界が一つになって地球を守るべき時に、破壊的行為を繰り返すプーチンは、どうやってこの責任をいずれ取ることになるのであろうか。

温暖化対策には、再生可能エネルギーの最大限活用は当然のことながら、安全性が高いという新技術の核融合発電の早期実用化を視野に入れることも必要ではないだろうか。我々個々人は生活の中で循環型社会に貢献できているかを常に考えて行動することが大切である。(ryosa)

○<あらためて、「武力で平和はつukれない」の確認を>

焼野原と化した日本が敗戦後得たもの。それは日本国憲法。このすぐれた憲法が日本や世界にとって、どんな意味を持つものであるのか。単なる理想の旗印なのか。自国のことだけでなく他国をも巻き込んでこそその日本国憲法。

私は、敗戦直前に生を受け戦後教育の中で育った。こ

の憲法の持つ意味を何も分からず、只々この憲法を享受して育った。そんなことを今になって思う。

今、第二の冷戦ともいえる東と西の対立。「武力で平和はつくれない」この当たりのことが当たり前でない今の世相。話し合いで解決しようなどと言っても、国連すら弱体化している今、どこがそれを為し得よう。

他国と国境を接している中東やヨーロッパの多人種・多宗教をもつ国々の人と日本人とはおそらく考え方が違うだろうが、命というところでは同じ人間なのだ。遠い国の出来事だと静観してはいられない。敗戦から77年経ても占領国アメリカから自由になったとは言い難い。軍事費の増長・原発再稼働・輸出入等々、明かされていないことの数々をはっきりさせ、飛んでくる火の粉を振り払うためには、集団的自衛権行使容認や敵基地攻撃能力云々を議論している場合ではないと思っている。

(hira sumi)

〇<「戦争に絶対関与しない」の決意と行動力を>

ロシア・ウクライナ戦争の問題も、地球温暖化の問題もみんなあまりにも大きな問題で、何をどうしたら本当の解決策が出てくるのか、心もとない昨今である。しかし今回の哲学カフェでは、様々な意見交換ができて有意義であった。

地球の裏側からの戦火が中国・台湾戦争への導火線ともなりうる今日、我々日本人もこれに巻き込まれていく危険性は十分にある。このことを、肝に銘じておかねばならない。ひとたび戦争に巻き込まれたら、最後、人

の無差別大量殺戮と居住環境破壊など大惨事は避けられない。現在のウクライナ・ロシア戦争を見るまでもない。これまで日本が平和を希求する文化国家であることで、世界から尊敬されてきたことは、憲法9条のおかげであると言っても過言ではない。残念なことに、「日米軍事同盟」下では、「平和憲法」が風前の灯火である。今こそ、国民の一人ひとりが、「戦争には絶対に関与しない」憲法遵守の決意・行動力が要請される時はないのではなかろうか。

(島田)

〇<「原発を再稼働新增設しないでください。」

(岐阜県下各市町村に請願書提出)>

本年8月24日岸田首相は「原発17基の再稼働」「新小型原発の新設」などの方針を表明した。それについて原子力規制委員会山中委員長は記者会見で、通商産業省の検討に委ねる考えを示し、原発運転期間を原則40年、最長60年のルールが削除される見通しを示した。

そもそも原則40年ルールは、福島原発事故の反省で定められたが40年でも危険は否定できず、それ以上の稼働は受け入れ難い方針であり、福井県の原発の風下にある地域の住民の命と暮らしを守るため「原発の再稼働、新增設を止めてください」との請願を岐阜市議会11月議会に提出した。尚、紹介議員は8名であり、日頃、脱原発の議員でも不参加議員あり不思議。

(請願提出団体名:「子どもの安心安全を願う会」)

今後、大垣市、揖斐川町、大野町、池田町、神戸町、関市などの各議会に提出予定。

(井口)

<この一本> 新海 誠 監督 『すずめの戸締まり』 2022年11月公開

連日のようにテレビから流れ出るCM。マクドナルドまでがタイアップしているではないか。この大量宣伝は、50年前に角川映画が、そして、その後はジブリが企ててきた。監督は「君の名は」の新海誠。これだけ、大量宣伝するからにはよっぽどの自信作なんだろうと出かけてみた。

あらすじはこんなだ。九州の静かな町で暮らす17歳の女子高校生の岩戸鈴芽(いわと すずめ)。彼女はある日の登校中に扉を探している青年・宗像 草太(むなかた そうた)に出会う。彼の後を追って山中の廃墟で見つけたのはある一つの扉だった。なにかに引き寄せられるように、すずめは扉に手を伸ばす。そこにあったのは広い草原と全ての時間が混在した空

間(あの世)であった。

その後二人の前に人間の言葉を話す謎の白い猫、ダイジンの現れ「お前は、邪魔」と話した瞬間、草太は鈴芽がまだ幼い頃に使っていた椅子に姿を変えられたのだった。やがて、日本各地の「災いの扉(後ろ戸)」が開き始める。この災とは地震である。扉を閉めないと大きな地震がまた



襲ってくるのである。その災いの地=彼らの行き先は、神戸→東京→三陸と、かつて巨大地震に見舞われた地である。

災いをもたらす邪悪のものを鎮めていく、それが普通のどこにでもいる女子高生ということで、爽快感のある仕立てになっている。作品の舞台になったところも「聖地」として巡礼されるであろう。

主人公の「すすめ」、育ててくれた伯母環さん、街々で出会う人々の多くが女性であることなど今風だし、脚が一本無い椅子の意味、後ろ戸は廃墟であること、

流れる音楽が、チェッカーズ、中島みゆき、郷ひろみ、松田聖子などなど。様々な所にメッセージが込められている。特に東北地震を物語りの土台に据えている点に拍手したい。

そんな中で気になったのは、草太が「かしまい かしまい」と唱える呪文のオドロドロさである。それとね、と無いものねだりを始めたら止まらない。スタジオジブリの作品の影響が随所に見て取れる。宮崎駿さんの長編アニメはもう観られないだろうから、新海誠さんにはもっともっと頑張ってもらいたいと願う。(足立哲男)

<この一冊> 林典子著 『人間の尊厳・いまこの世界の片隅で』 岩波新書、2014年刊

いうまでもなく戦争は人間の尊厳を根底から破壊する行為である。だが、戦争がないまでも、国内外には二元の尊厳を踏みじじる行為、事件が山積みである。

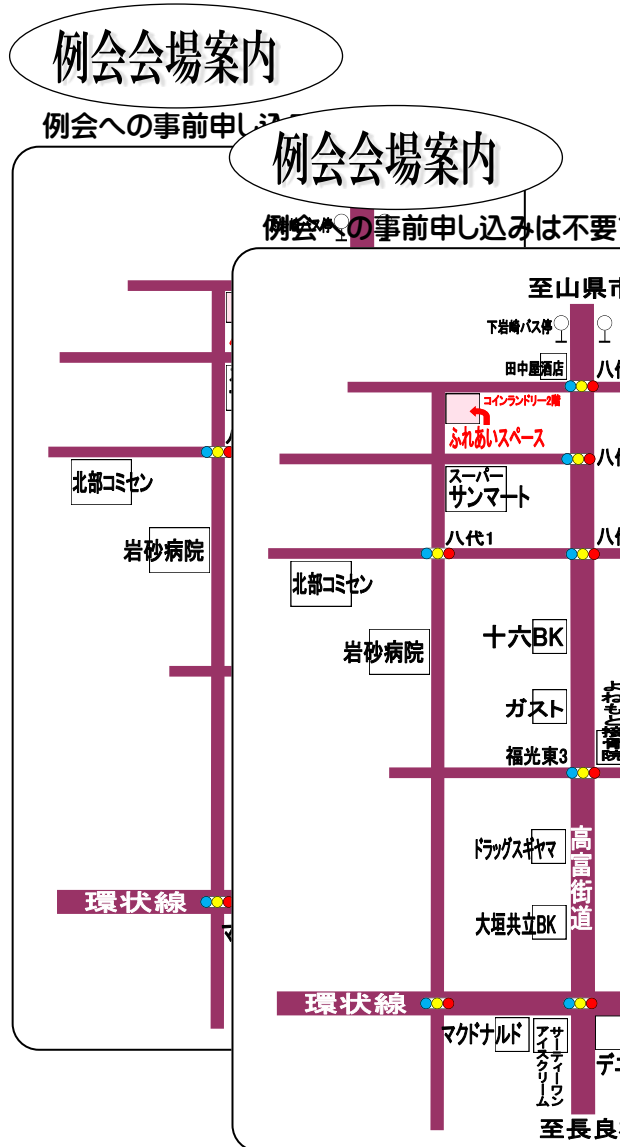
本書は若きフォトジャーナリストが、留学時代に訪れたガンビアをはじめ、世界各地で起きている事象を人間の尊厳の視点からとらえ写真報告集である。世界最貧国の一つガンビアの実情を訴えようとする記者たちには報道の自由がない。独裁政権下で、貧困にまつわる売春問題、児童労働、教育問題もすべて闇に葬られてしまう。同じようにアフリカ最初の共和国だったリベリアでも、内戦後の難民や元少年兵の置かれた状況は悲惨だった。

さらに、生まれた時から耳が聞こえず、話ができず片目が見えず、母子感染でHIVキャリアーになったカンボジアの少年。結婚や講師を拒否された男性から硫酸を浴びせられたパキスタンの女性たち。ある日突然「誘拐されて」花嫁にさせられ、「慣習」だからとやむなく応じるキルギスの女性たち。そして、あの2011年の東北大震災と原発事故に、彼女は外国の報道仲間の要請を受けてわずか3日後に東京を発ち、苦勞して5日後に現地入りした。その数週間、被災地を次々訪れて話を聞き、撮影し、世界各地に届けた。

その視線は常に、被害を受け、被災し、人間の尊厳を必死で守ろうとする人々の側に向けられている。よくぞこんな危ないところで



取材したものだと、ハラハラ、ドキドキしながら読み進めた。その勇気は見事であり、人間という者の尊厳をしっかりと語ってくれたように思う。少し古いが中味は新鮮、ぜひ手にとってほしい。(sensyu)



哲学カフェ 第28期(2022年後半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00～9:00 ふれあいスペース
⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第174回例会 12月8日(木)	<p>「危機の時代の2022年をふりかって」</p> <p>*あらたな戦争だけでなく、今年は21世紀に入って最大の危機の時代であったと思われます。</p> <p>*いまだ先が見えない温暖化問題、永続化する感染症、何と言っても世界の分断、これらをしっかり捉え直しましょう。</p>
---------------------	--

哲学カフェ 第29期(2023年前半) 例会予定

第175回例会 1月12日(木)	<p>「新年の展望、抱負を語る」</p> <p>* 2022年はロシアのウクライナ侵攻開始から長期化する戦争の一年。</p> <p>* 新年をどのような年にしたいのか、展望ある年にできるか。語り合おう。</p>
第176回例会 2月9日(木)	<p>「いかに食糧自給率をあげていくのか…このままでは危ない！(仮)」</p>
第177回例会 3月9日(木)	<p>「人工知能(AI)は人間社会にどのような影響をもたらすのか？」</p>

4月以降の例会テーマについて、希望や意見をお寄せ下さい。

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしく願います。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



★2016年の「電力の小売り自由化」以降、化石燃料や原発によらない電力を供給する新会社が雨後の筍のごとく設立された。私は数年間様子見をしたが、昨年早々その一つのハチドリ電力を選び、永年の中電との関係を打ち切ってネット上で契約を結んだ。

★当時電力料金は、すでに一昨年来の原油・ガス価格の高騰で上昇していたが、今年は更にウクライナ戦争の影響もあって新電力の収支の赤字が拡大し、多くがあえなく事業を閉めた。ハチドリもこの大波を受けたが、この春まではなんとか持ちこたえ価格も中電より安かったが、夏に入ると急に高くなり、「お約束の電気料金では通電できなくなりました」との通知と

もに大幅値上げが予告された。また、今後の価格は電力市場の変動次第とも告知された。

★「ご不安なら従来の大手電力などとの再契約もお勧めします」とも書かれてあったが、年内は様子を見ようと決めた。ところがしばらくして一挙に1.5倍以上の料金請求が来て、少々心は揺らいだ。しかし、2ヵ月ほどそのままにしておく、朗報が届いた。「やっと自前の太陽光施設が稼働し、今後の安定供給や旧料金体系復帰への足掛かりができました」と。

★そして、「目先のお得」を求めがちなのが身を恥じることにもなった。環境保護に特効薬などないのは自明の理。小さな後退現象が現れても、数年後や10年・20年後の「森」を育てることをゆるがせにはできない。これ以外に確実な地球を守る術はないだろう。また、平和を築く道も同じではないか。

(大橋健司)